



モアイ像の謎

1 いつ作られた？

「ラパ・ヌイ・イースター島」にいつごろ人がたどり着いたかは、今でも分かっていません。様々な説がありますが、6世紀前後にポリネシアのマルケサス諸島あたりから漕ぎだした島民がたどり着いたと考えられています。島に住み着いた人たちは石を積み重ねた祭壇（「アフ」）を作り始め、10世紀ごろからモアイ像を作るようになりました。モアイ像は17世紀まで作り続けられていました。

2 なんで作られた？

モアイ像を見ると「なんのために作られたのか」と思う人がいるかもしれません。これも様々な説がありますが、「モアイ像は先祖の霊を祭る」という説が有力です。また、モアイ像が立っているプラットフォーム「アフ」から人の骨が発見されたのでモアイ像は「お墓」だと考えられています。

3 どうやって作られた？

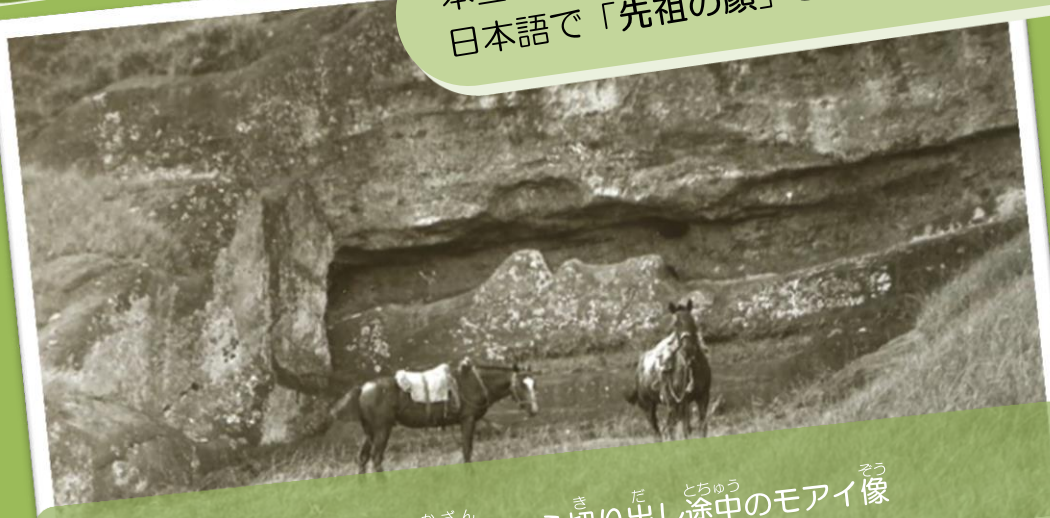
「ラパ・ヌイ・イースター島」にある「ラノ・ララク火山」に加工しやすい岩「凝灰岩」があります。硬い石器（オブシディアンなど）を使って、昔の人々はモアイ像を火山から切り出しました。1体のモアイ像は20人の力で、1年以上をかけて作られたと考えられています。

4 どうやって動かした？

モアイ像の大きさは3.5m、重さは20トン程度もあります。昔の島民は「ラノ・ララク火山」から、島いたるところにモアイ像を運びました。しかし、どうやって巨大なモアイ像を動かしたのか？島民に伝わる伝説に、「モアイ像は自分で歩いていきました」という話があります。移動方法はまだ謎のままですが、最も有名な説によると、昔の人はロープを使って、モアイ像を引っ張りながら、「歩かせる」ことが出来たと考えられています。



本当の名前は「モアイ・アリンガ・オラ」です。日本語で「先祖の顔」という意味です！



「ラノ・ララク火山」から切り出し途中のモアイ像



頭に乗せてある赤い岩は「プカオ」と呼ばれます。「プカオ」は「パナ・パウ」採石場から切り出した赤い岩で作られています。「プカオ」に「髪飾り」と「男性の結髪」という意味があります

モアイ像には「目」があるものもありました。モアイ像に「目」を入れることによって、「マナ（霊力）」が宿ると考えられていました。「目」のあるモアイ像は超自然的な力を持っていると信じられ、「部族の守護像」として祀られました。モアイ像の「目」はオブシディアンと白いサンゴで作られました。

